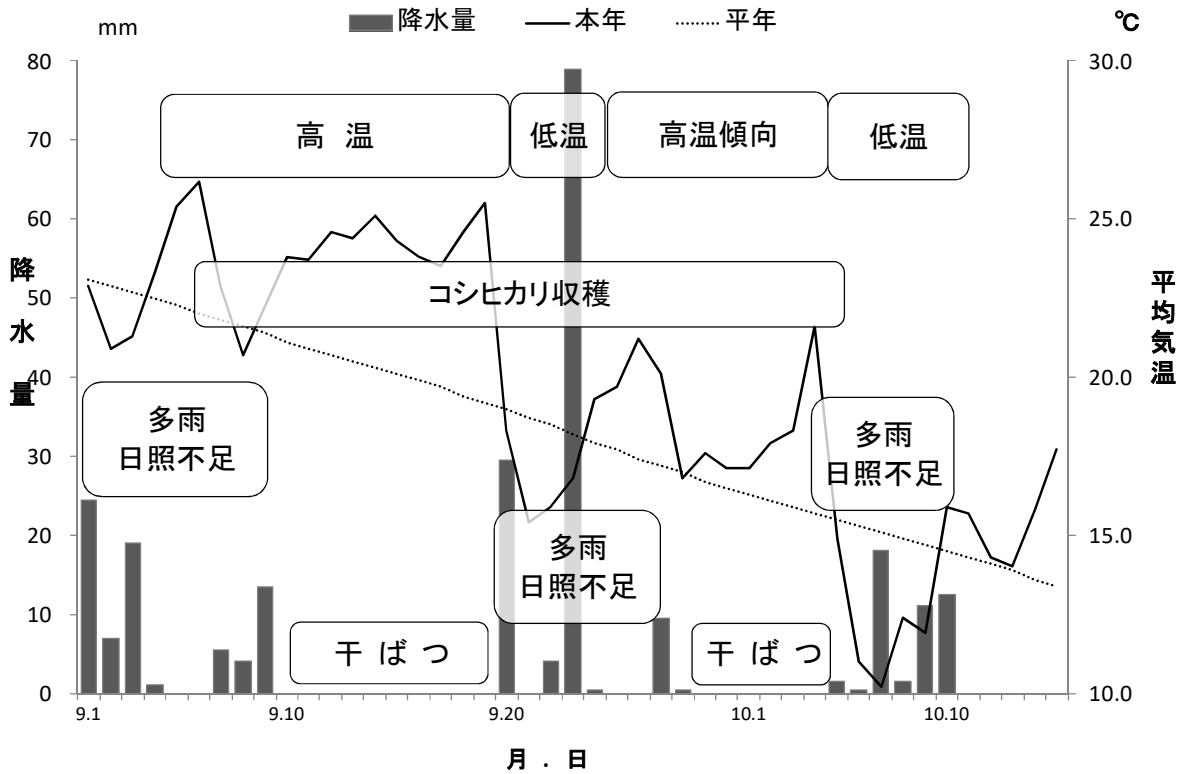


令和4年 作物技術普及情報 第19号

麦の播種作業、大豆・そばの生育状況について

1 気象状況

令和4年 気象経過(穂高アメダス 9月 1日~10月15日)



9月から気温や降水量の変動が大きい状況が続いています。
今後の気温・降水量は平年並みと予想されています。

2 麦の播種作業について

(1) 適期播種

- 松本地区のような寒冷地での麦作は、越冬前（12月中旬頃）までに必要な生育量（葉数3～4葉・茎数3本／株以上）を確保して耐寒・耐雪性を獲得することが重要になります。
- 播種が早すぎると越冬前の生育が過剰となり、肥切れや低温で著しい葉の黄化や葉先枯れを生じることがあります。

近頃は播種後の気温が高い年や、2～3月の気温が高い年が増えており、越冬後の生育が過剰になる年が増えているように思われます。この点からも早すぎる播種は避けるようにお願いします。

- 播種が遅すぎると、越冬前に必要な生育量が得られず、寒害や凍上害等の生育障害を受け、茎数・穂数不足で減収する可能性が高くなります。

このため11月下旬以降の極端な晩播は避けるようにお願いします。特に大豆収穫後の麦は、播種遅れにご注意ください。

★ 播種時期の目安 ★

標高500～600m 10月末 頃～11月20日頃
(注：山ぞいの場合 10月25日頃～11月15日頃)

標高600～700m 10月25日頃～11月15日頃
(注：山ぞいの場合 10月20日頃～11月10日頃)

標高700m以上 10月20日頃～11月10日頃

標高800m以上 10月15日頃～10月末

★播種量の目安★

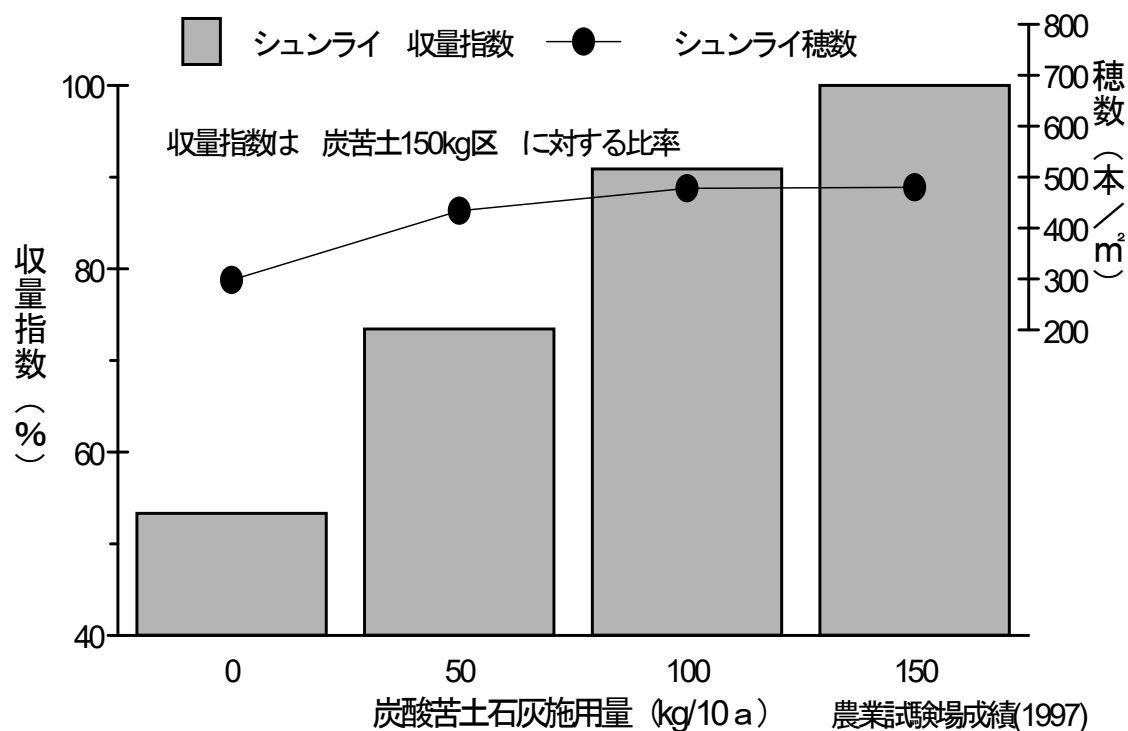
8 k g / 1 0 a

播種深度が深すぎると、出芽・生育が著しく遅れるので、5 c m以上の深播にならないようご注意ください。

(2) 酸度矯正

麦は酸性土壌では生育が劣り苦土欠乏も起こしやすい作物です。酸度矯正不足の麦は、春先の生育が劣り減収するばかりではなく、麦の品質低下（登熟不良による細麦化、容積重やタンパク質含有量等の低下）を招きます。

水田跡に麦を栽培する場合は、炭酸苦土石灰などを施用して、p H 6 ~ 6 . 5程度に酸度矯正を行うようお願いします。



(3) 耕起及び播種作業について

- ① 砕土、整地が悪いと出芽や生育が劣ります。また、播種後土壌処理除草剤の効果を引き出すには、除草剤処理時の砕土状況（粗いと効果が劣る）や土壌水分状況（乾きすぎだと効果劣る）が重要なポイントになりますので、砕土は細かく丁寧をお願いします。
- ② 今年は9月に降水が多かったため、滞水して乾燥の不十分な圃場が目立ちますので、次の点にご注意いただき播種作業を進めるようお願いします。
 - ・ 滞水している場合は、排水溝設置等の対策を講じ、速やかに圃場外に排水して土壌の乾燥を促してください。
 - ・ 土壌水分が高いと出芽率が劣るので、圃場がなるべく乾いた状態になってから播種するようお願いします。
 - ・ 湿潤状態で無理して播種すると、砕土も荒く、また練った状態で覆土されて出芽不良になりやすいため、無理な播種作業は避けるようお願いします。

(4) 雑草防除

- ① 除草剤を散布して2週間後位に、圃場を観察し除草剤の効果を確認してください（特にスズメノテッポウやヤグルマギクは要注意）。残草状況によっては、茎葉処理剤の処理をご検討ください。
- ② ネズミムギ（イタリアンライグラス）の発生している圃場に播種する場合は、播種前の耕起を十分行い、ネズミムギの発生が少ない圃場条件にした後に播種するようお願いします。

(5) 排水対策の徹底

ほ場周囲には必ず排水溝を設けてください。排水溝はただ掘るだけでなく、水尻につながっているか、圃場外に確実に排水ができているか、確認をお願いします。

3 大豆の生育について

大麦後大豆等で播種の早い圃場から、葉の黄化や落葉が進んでいます。今年はやつきも良く、黄化も均一に進んでいるため、生育は順調の様相です。

このため、大麦後大豆の収穫は10月下旬から、小麦後大豆は11月初旬からが予想されます。

4 そばの生育について

現在黒化率は概ね100%で、収穫適期を過ぎつつあります。刈遅れで脱粒する前に収穫を進めるようにお願いします。